２０２１年１１月２７日（土）

老球の細道６４２号

トスティン・ロイブルの「オンラインクリニック」②

会津バスケットボール協会　室　井　冨　仁

今回のオンラインクリニックはチェコ・プラハからの発信であるということで２００９年年末に参加した２回目のドイツコーチングツアーを思い出した。このツアーには多くの会津、福島県の情熱あるコーチが参加した。二瓶誠二氏（坂下ミニ）、星博之氏（若松商業）、佐藤公希氏（城北ミニ、会津大学）、桑田粒哉氏（郡山商業）、渡邊拓也氏（福島南）、菅野香代氏（郡山東）である。このツアーの企画者がトステインとエルトラック社長鈴木良和氏（現日本女子代表 AC）で、通訳が伊豆倉明子氏（埼玉県中学校コーチ）だった。

ツアー４日目にドイツ・ケミニッツからバスに乗って国境を越えチェコのプラハに行った。たった２時間で、しかもパスポート不必要でプラハに到着した。プラハではチェコ代表コーチ・ジーデック氏のクリニックを見学した。チームオフェンスの組み立て方などが今でも印象に残っている。クリニックの内容も強烈だったが、世界遺産の街プラハもすばらしかった。神聖ローマ帝国首都としての栄光が町全体に残る。プラハ城、カレル橋、そしてスメタナ作曲で有名な「モルダウ♬」のモルダウ川。

昔のことを思い出しながらトステインの話を聞き、伊豆倉先生の翻訳でまとめてみた。

【トステインのチェコのコーチに対する感想】

＊教師と同じようにプロフェッショナルである

＊ゲームのコンセプトを明確にして教えている。その背後にはしっかりした練習メソッドが構築されている。だから少ないタレントから多くのエリートを輩出している。

＊コート上では積極的に動き、ポジテイブに対応している。

＊ゲームにつながり、競争的な要素を多く取り入れた練習をして、ゲーム的なことを学べるようにしている。

＊決して自己満足しない。常に貪欲である。

＊新しいアイデイアをオープンマインドで受け入れ、発信している。

＊信頼のおける人間である。選手の可能性に着目し、将来性を重視する。不満、グチを言わず、最新のトレンドを常に吸収する。そして何よりも、選手やスタッフをリスペクトする。

【トステインが語るこれからの日本に必要なこと】

＊身体的な強さを向上させ、コンタクトに強いプレイをできるようにする。

＊スキルは少なくとも良いから高いレベルのスキルを身につけさせる。色々なスキルを中途半端に身につけていてもハイレベルでは通用しない。

＊日本のコーチは話が長く練習がすぐ止まる。チェコのコーチは話が短い。30 秒から１分で終わる。練習の流れが止まらない。選手はプレイすることによって色々学ぶ。

＊ティーチングポイント、コーチングポイントを整理して練習の指導に当たるべきである。整理されていないと、練習におけるミスの修正ができない。　　〈続く〉